

松葉蘭譜 完

W373-H25



1200501844141

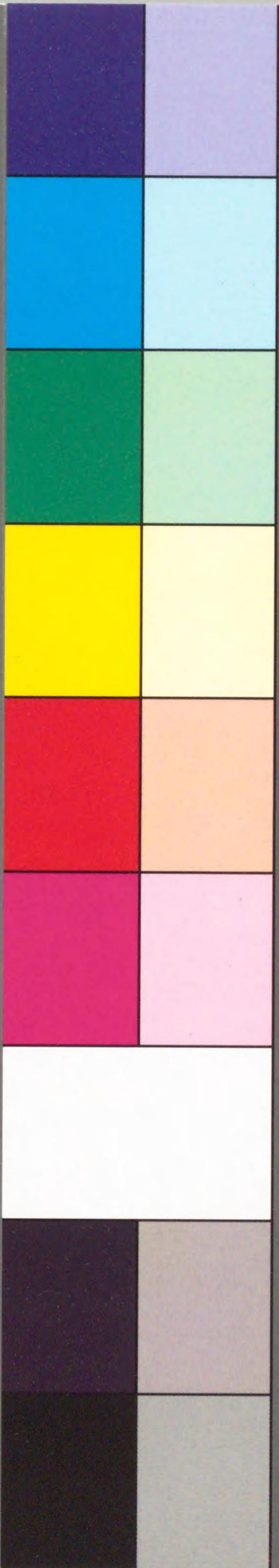
特許局圖書館

松葉蘭門	五類	一五九二號	卷册
------	----	-------	----

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

特許局圖書

國	函
866 號	10
部	架
冊	3
	39 號
	40

W373

H25



I 種

W



1200501844141



松葉蘭一名長者蘭又名帚蘭其初生于斷岬
 絕壁之下若將嘉遯世塵焉及橐駝一過相其
 異常盆栽培養與花卉諸草為伍若固有之然
 能順天繁植滋茂然且能變其野之舊現新呈
 奇如麟如鳳如龜如龍如獅如鶴光教似錦温
 潤如玉奇姿瑰偉千種万態誰識瑣小艸而
 卷舒天秘夫如是能自由也哉楮鞭之家或以
 為徐葆光所錄竹蘭或以為蘇頌所謂地拍或

松葉蘭譜序

云竹蘭万壽竹而與松葉蘭殊異也。衆喧囂未認得。其為云等物也。然中山稱之松蘭者。近得明證。定為中山松蘭。即我松葉蘭也。姑為五德。曰太極一幹分兩儀。枝兩儀之枝。折四序。枝辨動靜之數。顯相成之理。著明于蒼策。松葉蘭。夫通陰陽造化之源者。一德也。無蒼可映。香可觸。無盛無衰。幾乎知道者。二德也。青綠如壁。四時不變。三德也。萌芽抽軋。枝柯葇布。不須

松葉蘭譜

松葉蘭ハ紀伊攝津播磨豊前肥後日向大隅薩摩東國小冬何遠江駿河伊豆及び八丈神集御倉之宅大島海外にて冬琉球諸島小産と云々といふ。本草諸書不載ざるを以て能効を知人稀か。且世に玩弄する。僅に六七十年来のこの由をけと愛する人盛に培養。その天然小應一奇品。珍種を出さ。益繁昌して二十餘年来の間。既百餘品了。過たり。寛政年中。小野蘭山此を中山傳信録の竹蘭不譚よ

世人普く松葉蘭ハ竹蘭ありと云之を知と云ども傳信

録り冬有松蘭竹蘭棒蘭 杖如珊培樹綠色無葉 花從極間出似蘭較小 ところ更

竹蘭の松葉蘭大る明證か 傳信録ハ清康熙五十八年徐 八箇月の間物産を詢紀一清朝と同一物ハ名むり記一異

て捧蘭ハ此頃薩摩の人琉球より松蘭竹蘭棒蘭の三種と 無ふや

將來きり松蘭ハ松葉蘭ありて琉球みくマツランと称し

竹蘭ハ肇慶府志の萬壽竹 江戸花戸のふいて琉球みくハ

タケラン と称し捧蘭ハ本草綱目の釵子股子り琉球みく

ハウラン と称しると云里然る時冬竹蘭ハ松葉蘭子あらび

志て松蘭をかちち松葉蘭大ると確證を得たりと云へ

品類

百廿餘種の内寫真六十品下小臚列をかい形状の大概と撮記を形状を記するハ寫真を見く弁し知へ

雲龍獅子

葉色深緑極のよれは扁たく角たるち葉よりひらき有て 桶ありやち雲中龍の啞結まるり似たりよと名とせり好

上坂縮緬

又雲鶴縮緬 七寶縮緬 初新官縮緬と云南紀縮緬と改め後小七 寶と称し草深緑しつやま幹丸く系

玉光縮緬

上坂の雄本と云へ 麒麟角 形状みり角り似たり

玉獅子

葉色浅緑幹と極の同小極あり 玉獅子の旗毛のみ見ゆ改名とし

あま縮緬

草色中緑幹丸く葉先下り 玉獅子のあま縮緬の如し

鳳皇縮緬

草を浅緑二の枝より又の如く組合ハ 葉の中太くお腰細く鳳尾の如く好

玉縮緬

草色中緑幹小角と丸と二枚 あり葉先丸く玉をか改名付

揚枝縮緬

草色浅緑幹丸く葉に極あり葉先 小芽あり凡折の姿あり自然の雅趣を

玉鳳縮緬

草色深緑幹小丸あり初有岡縮緬と云

文治縮緬

草色中緑幹葉共丸く葉先太く養

喜盛縮緬

上方より一品枝川と云称算より此 細葉より大なる葉あり細

雲龍縮緬	弥高縮緬	柴卯髭棒	玉川縮緬	龍髯縮緬	拂子縮緬	久保斑	勇獅子	折鶴
巫山竺と云縮緬寄物捨斑 の四品を兼たるを以ては辰時共云	中緑にして下り多く縮緬少き かハ辰川縮緬と云	浅緑にして葉先少く垂る 棒葉中の極品と云へ	布を晒して下り葉ふくまひあり故に 名付	浅緑にして葉先とがり孫のひげふ ゆるり 赤盛より草に極細心と	拂子ふゆる故に名付	並草より島ふあり	本方の金明ふゆる葉ふくるひと	幹ふ花あり枝折づものや
金剛獅子	鶴柴縮緬	盛玉縮緬	玉龍縮緬	寄物捨	龍登斑	鳳皇柳	青柳縮緬	真大捨
中緑ふく幹丸く葉角たち縮緬 あらく一辨ひ強く長く垂る	杖ぶら富士の鶴柴のや故に名付	中緑幹丸く葉角たち金剛獅子のち めんゆる寄物雖も云へ本方折と云	杖ふく幹丸く葉先丸くまひく 徒あり形龍の蟠るふゆる	葉のり合て葉先をねちあり	龍登斑の斑あり	幹太く極の桶深く葉先ふ捨まろ きたも捨の葉あり子至くと云へ	中緑より姿楊柳のや	根りより葉末を捨まひく通し り葉よりまの

後出文治	友白髪	後出玉柳	捧蘭折鶴	枝川縮緬	鳳明笠斑	連波斑	孫市縮緬	手掬笠
文治の風より葉ありまよひ	髪むくみくまよひ	中緑より玉柳の垂れあまの 捧葉より葉先折つものや	文治ふゆる枝をよめあく二村ふゆる 中ふゆる	ミヨより葉へかけ細くまよひく ミヨより葉へかけ細くまよひく	ま波のこま姿ありあまの	二村の風あり共たれより草ひけ荒	葉丸くまよひくまよひのや	
と川斑	髭棒	三操笠	二村縮緬	吾妻縮緬	縮緬斑	文樓斑	龍角笠	玉華金明
初乃と形	捧葉のひけあまの	捧葉より髪と折つると二品を やたら初深緑と云	孫市の極上品と云へ葉艶より 垂ると長	根丸くちりやんゆき葉先たれ ちりやんの斑あり	ふと草より上は後きへ	龍角のこま姿あり	葉先より葉あり	

梅咲か、リ	燕尾空	錦絲玉鶴	錦絲折鶴	片山縮緬	昇龍	砒手金明	棒縮緬	六兵衛鬘
ざり空の裏の梅のゆかりのゆかりの 小枝をこく松皮を先おまを境	葉先燕の尾のゆかりのゆかり	色至るくなく棒葉の細きゆかり 葉のくまひり	いり先の葉先折つるゆかりのゆかり	孫市と同いふゆかりとも葉のゆかり ゆかりゆかり	松皮のゆかりのゆかり	葉外へゆかりのゆかり	棒葉のちりめん	長棒あり
日高斑	玉鶴	捻金明	羨髯縮緬	立波縮緬	金剛縮緬	のめ斑	玉麒麟	青海縮緬
日高屋裏の表より出るゆかり	葉のゆかりのゆかり	元ハ青手いさうゆかりと云ふに捻 あつて葉金明ゆかり	青海の細くゆかりのゆかり	池田ふくあつちりめんゆかりと云	ちりめんゆかりあり	葉の中をよみゆかりのゆかりの腰 ゆかり	棒葉ゆかりのゆかりのゆかり ふり	羨髯のあつちりめん

橋本捻	元山文龍山	孔雀空	筆空	早蕨空	垂柳空	小捻空	寄物黄斑	左捻
右捻あり	文龍山の元木あり	孔雀の尾のゆかり	長生空のゆかりの中ふくちりめんゆかり	蕨のゆかりのゆかりのゆかり	柳のゆかりのゆかり	捻ゆる	ゆかりの黄斑あり	丸捻あり
矮雞金明	伊吉利須	紺庄寄物	立葉金明	揚枝文龍山	普賢象	茶筌空	孫市黄斑	高柱斑
金明のゆかりのゆかり	中緑ミキ、丸く葉よりとけあり太く 若くするゆかり	泉列の紺庄より出るゆかりの物	金明の葉内へかゝるゆかりと云ふゆかり	文龍山の枝のゆかりの石松あり たん	ゆかり物ふりゆかりのゆかりの ゆかり	葉先ひらき茶筌あり	細くきにゆかりのゆかり	高柱のゆかりのゆかりの上ふかれ共 年ふりゆかりの出ぬとあり

金鐘樓譜 (一) 材譜 龍譜

舞鶴	後出の枝止るか出梅かよ ミキにふれあり	田の江文龍	田の江の文龍の 枝よりがらあり 並系のや あれとちのち様ふひや よりものいろろくまの
改吉棒	その勢にすうく名をい 持ふかきるを名をい	か、リ笠	世村氏より知すもの 世村氏より知すもの
龍勢笠	庭をたきく葉あり	玉緑	かち全く馬尾のや くろまかて変丸
七変化	よりもの中の太くき るをいふひろきもの	野村出	枝よこふひろきもの
末廣笠	よりものマラ風竹のや	馬尾棒	梅葉の枝止こいど有もの
長生笠		金剛笠	
古屋谷		真捧蘭	
鳳明笠		都捧蘭	

間門縮緬	初縮玉盛といふ玉柳の短く風 塘のや今剛獅子の工ふたるもの	帯突園	大草ふくくちうめんあらくミミに くもひあり
麒麟獅子	池田の高才にある草をスミ	朝妻縮緬	玉柳のやくくちうめん極ゆる 姿たをたふむくけい
奴笠	小児の垂髪に似たりもの	黒種	ま色ころ
太郎班	めく葉みのり白ふくくを橋の 葉をた似たり 班の上品もの	青珊瑚	きんこく白に似たり
万代笠	万代松ふ似たりをい	玉折笠	玉の姿あ枝玉にあり
高島盤棒	柴卯の葉の極ゆる葉先あ きもの	夜叉縮緬	しらんやくと似くひやあり
錦絲棒	紫介の葉の極ゆるひけあき もの	烏帽子縮緬	ありのよひに似たり

羅紗寄物

くろまけくろまけあまをりやの
〜

寄物班

よりあのみつら

○

富士雪

ふのきまのうつくし

炭團屋盤

とくまのうつくし

金明笠

たしんやひけのえ本をり

○

銀世畧

白ふあり

金世畧

黄ふあり

松葉蘭を愛するに上方の久しく園東の辺にのこかれハ形状り信園の
誤もあるへく園不至くも草の出来ふ出来を撰りついと園あり孫ハ他日
又識あり逢く訂正ハハハ園也上出来の系を見ることあり速く改む
へ〜る人乞を恕せよ



金剛ちりめん

此種近年江戸近郊ちゆうねん 江戸 ちゆうきョウみく求もとめりり茎くきうねちせあり
 枝えだきちんれるそのより茎くきのちねちせあり
 大まやうゆつろとて見みとふるよ金剛こんごうの力ちからあり又
 ちりやんの名なをゆるねあり持もちふ極ごく日ひうけし

本郷丸山住

千里所持

富士の雪



富士の雪のうゝ

此種葉を方よりあり時ハ柳類の葉よりあるをけしと求海之海
 葉先は人やうと見え飛鷹の伎は似けしうハ鷹と名号しが此舟に
 葉先をみて雪白のとうち平くありぬれをまきハ白と交方極
 ぬそ後平熟考るふかり熟葉なるれも太陽の光と交けり
 日向は持つまをよまれ切後琢磨して年月を歴ゆる不随ハ
 かの如く葉のぬれもあまもくも靈山の雪の如くとうり富士の雪とハ
 名つけぬ然れども葉の熟るこころハ此

團子坂所持

春のうゝ

春の葉はさう春の日のあやうの初春よりしれ用い更之初て日中ハ
 日向ハハと用いけりうの葉は春の日のあやうの初春よりしれ用い更之初て日中ハ

燕尾



草たちむく 蚶^{かや} 了^り 巫^まの朝^{あさ} 雲^{くも}うた^たく^く 庵^{あん}く
 枝^{えだ}先^{さき}むくく^くま^まけ^けく^く 燕^{つばめ}の尾^おふ^ふも^もら^ら 色^{いろ}深^{あや}緑^{きよ}や
 て^て万^ま年^{ねん}長^{なが}松^{しょう}の^のも^もく^くと^と舎^やめ^める^る 玉^{たま}柱^{ばしら}の^のと^とふ^ふと^と云^いい
 ま^まく^く日^ひか^かけ^けを^をま^まく^く性^{せい}か^かれ^れ 此^{この}中^{ちゆう}の^の隠^{かく}君^{きみ}子^こ

駒込
頂所持

雲龍獅子





七寶縮緬



上坂縮緬

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

麒麟角



玉光縮緬



揚枝縮緬



玉獅子





玉鳳縮緬



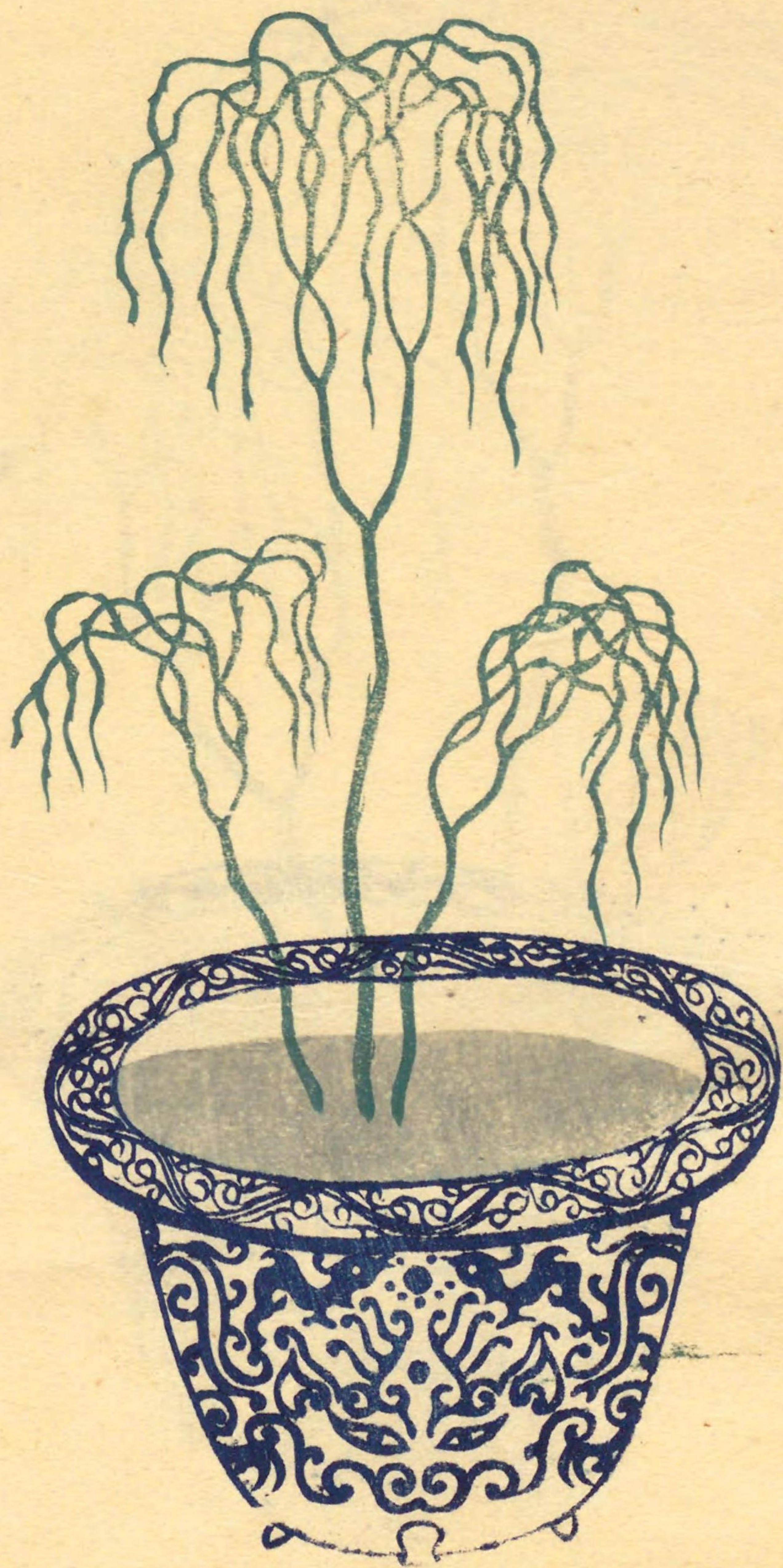
あゝ玉縮緬

玉鳳縮緬

十一



文沼縮緬



鳳凰縮緬



朝妻縮緬



玉縮緬

太郎斑



青珊瑚



鶴柴縮緬



夜叉縮緬





盛玉縮緬
又云玉杵



柴外鬚棒

玉龍縮緬



玉川縮緬 又云泉玉盛



拂子縮緬



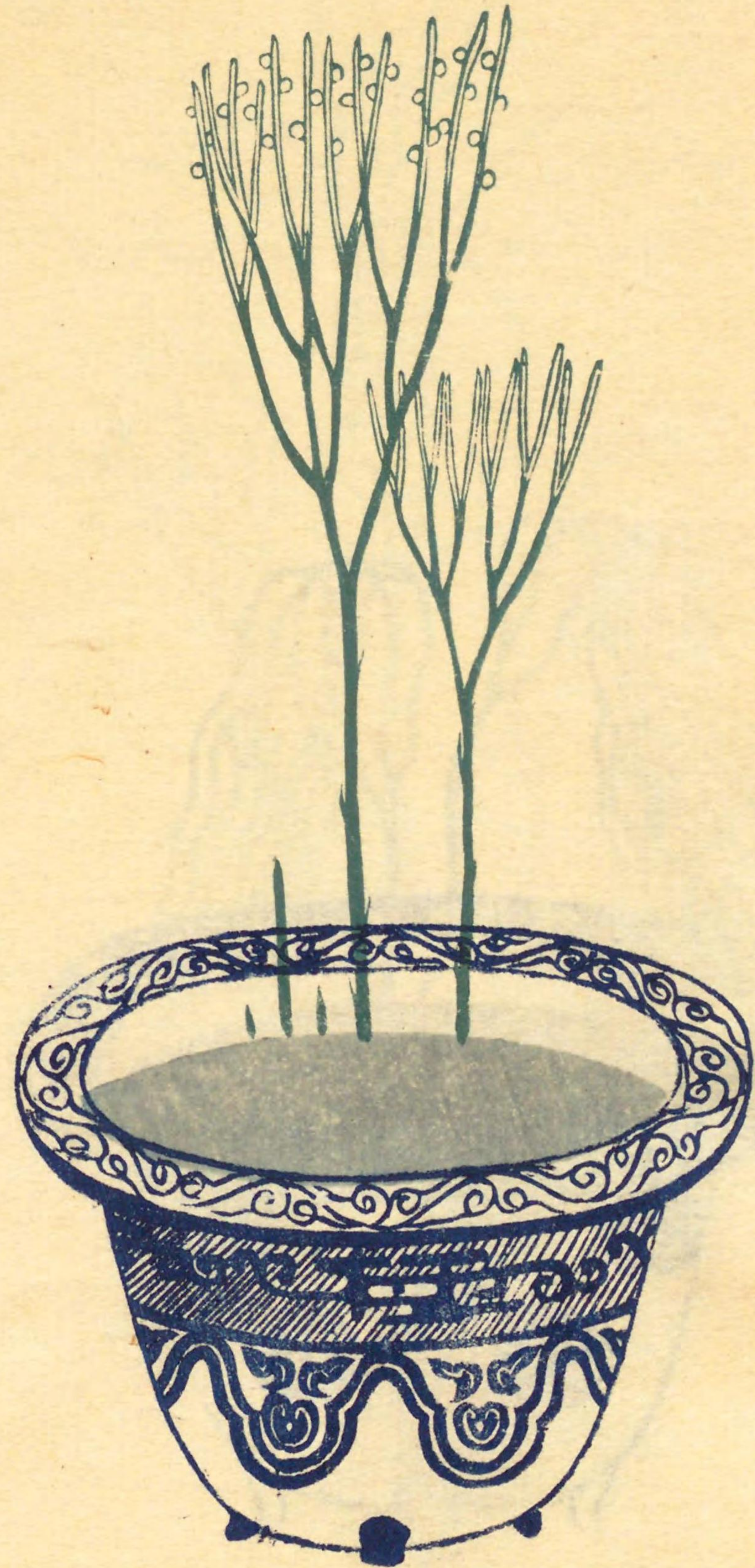
龍鬚縮緬



鳳皇柳



久保斑



土

青折縮緬



勇獅子





真大捨



折鶴

真大捨

折鶴

鬚棒



後出文治編廼



後出玉折



友白髮



十



三村縮緬



三操笠

廿八

廿九

吾妻縮緬



十一
九

枝川縮緬



十一
九

間門縮緬



孫市縮緬



于抹竺



麒麟獅子



梅咲方



文樓斑



燕尾



玉華金明



撿金明



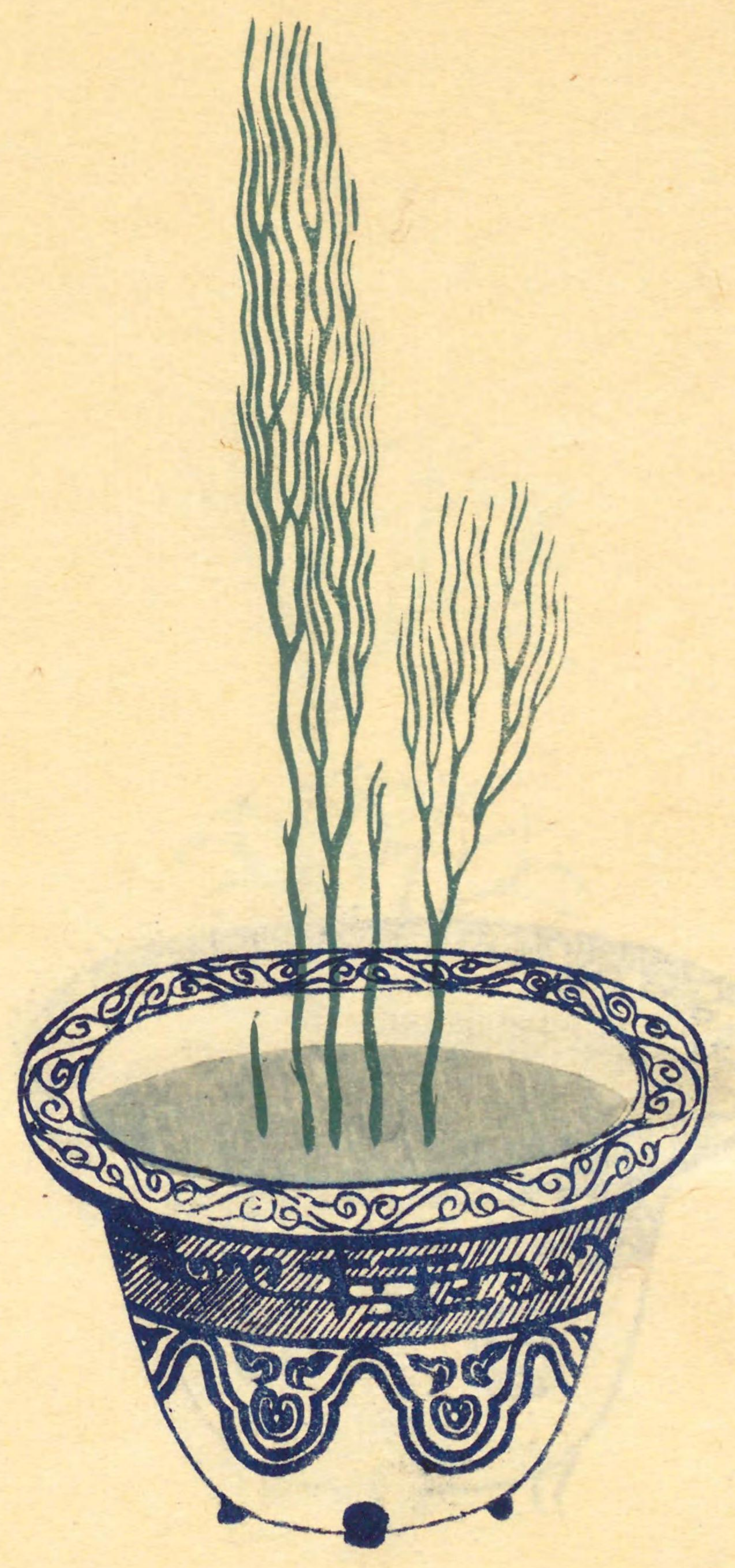
健手金明



橋本捨



美髯結緬



錦絲玉鶴



玉麒麟



萬代笠



錦絲折鶴



天竺白也



玉折笠



富士雪



昔人牡丹を愛と教や。は系陽三月祀あ
 架百両金を弄とれけ品類考いり。
 紅葉乃百綿集牽牛乃朝親業皆
 是物と貴重なるあをを甚しくあれを
 閑窓淨机の下に獨樂んより冬千里
 岡好乃士と廣く楽了志る以今人松
 葉蘭を愛と教と日と月と水と

培養頗豪華駝術を盡く一十年に
 清品奇草を生し殆百有餘種不及
 其好士東西懸隔より百餘里に
 一瓶の往來も容易ならず、
 乃奇品をく一瞬の内を飛へんや
 是松葉菜譜の作らざることを得ざる所
 ぬり敢て顰を牡丹百両金うり

あくぬ嗚呼松毛不葉を翠幹淨久
 抽く黄金の玉盤を綴り枝を常盤
 乃色深く根を繁昌の芽多し實了
 雨風時順に四海浪静りたる太平の
 瑞草を称すく更りて従上流の
 媚し草木と日を同く云へん物
 了あくぬりし言葉を海くく

皆人の志る処なりと云尔

天保七年丙申 水冬月 長生舎主

人謹書



<p>喜多武清筆 可菴画藪 全二冊</p>	<p>名家畫譜 壹冊</p>	<p>玄對先生画譜 山水部 人物花鳥部 全五冊 全三冊</p>	<p>繪本大和錦 初編 全三冊 二編 全三冊 三編 全三冊 一名近代名家画帖 近刻</p>
<p>抱一上人筆 鶯邨畫譜 全一冊</p>	<p>河鍋狂齋筆 繪本鷹がみ 初編 三冊 貳編 二冊</p>	<p>狂齋先生画譜 初編 全壹冊 貳編 近刻</p>	<p>是真先生画譜 全三冊</p>

古今名馬圖彙

全三冊

山崎知雄輯
喜多武清画

繪本勲功艸

前集
全十冊
後集
近刻

長生舎主人編

金生樹譜

全三冊

此書の草木部は、樹の培ちんかひのちり接木
のちり接木と云ふことと、樹と接けて、幸くまはさるる
國の名木と云ふことを、其の由て、統々其木と愛
稱し、あつたの必熱望し、あつたこと書す

卷 菱潭書

眞行 千字文

全壹冊

松葉蘭譜

一冊

此書の松系は、らん雲龍、柳子、うらな
ふゆり、など、名を、六十種、の、あつた
や、あつた、の、清、は、二、つ、つ、

東京日本橋區通四町目七番地

書肆

金花堂

中村佐助

